● 授業科目の
内容紹介

教職に関する科目

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
発達と学習		**2**	**国音**	**1**	**土屋廣人**

Ⅰ　主題

児童の発達・成長と学習の関係について、配慮すべきことを学び、効果的な学習指導方法について深める。

Ⅱ　授業の到達目標

1.発達と学習の関わりを理解し、発達的見方を身につける。
2.児童・生徒の発達的特徴(障碍を含む)を理解し、その思いを考察できる。
3.さらに、発達課題に沿った教育・指導方法を身につける。

Ⅲ　授業の概要

すでに学んだ教育心理学を基礎に、発達と学習について自らまとめ、意見交換する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 発達と学習1	発達と学習の関係について考える
2. 発達と学習2	発達に関する様々なとらえ方を学ぶ
3. 発達過程1	中学生、高校生の自分を振り返る
4. 発達過程2	幼児期の自分を振り返る
5. 発達過程3	近年の青少年問題を考える
6. 発達過程4	ライフサイクル(成年、老年期の課題を含む)を考える
7. 学習過程1	自己の学習過程を振り返る
8. 学習過程2	体罰・いじめなど教師と生徒、生徒間の相互関係を考える
9. 学習過程3	発達課題とその対応を考える
10. 学習過程4	事例検討
11. 発達障碍1	発達障害の基礎知識を学ぶ
12. 発達障碍2	発達障害の対応を考える
13. 教育評価1	教育評価の目的と方法を学ぶ
14. 教育評価 2	教育評価の効果を考える
15. まとめ	これまでの授業をまとめる

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用せず、適宜参考図書を提示する。

Ⅵ　参考書・参考資料

教育心理学関係図書

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
発達的見方の理解		○	○	○	
発達的特徴の理解と考察		○	○	○	
教育及び教育評価の理解		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各自、授業内容にそった予習及び新聞等の情報取集をすること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

順番に報告しあい、グループ検討を行うので積極的に参加すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国語科教育研究		**4**	**国**	**1**	**大塚浩**

Ⅰ　主題
この授業では、中等学校教育における国語科の授業を行うには、どのような理論研究が必要となるのか、また、どのような指導法が必要となるのかについて考察する。（中学校国語一種免許・必修科目）

Ⅱ　授業の到達目標
1.国語科教育学の構造を理解し、「国語科」の指導が出来るようになる。
2.国語教科書の構成について学び、国語教材の研究・考察ができる。
3.さらに、国語教材研究の知識を利用して、国語授業研究へと応用できるようになる。

Ⅲ　授業の概要
この授業は、国語科教育研究について理論と実践の両面から考究する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1- 2. 言語とは	イントロダクション＋言語について
3- 4. 国語教育学の構造	国語教育学の構造について
5- 6. 言語指導	国語科における言語指導について
7- 8. 国語教科書教材論Ⅰ	国語教科書教材の基礎論について
9-10. 作家作品論Ⅰ	作家作品論について
11-12. 国語教材研究論Ⅰ	国語教材研究の基礎について
13-14. 国語科教育実践論Ⅰ	国語科教育実践論について
15-16. 国語科教育指導論Ⅰ	国語科教育指導論について
17-18. 国語教科書教材論Ⅱ	国語教科書教材論・第Ⅱ段階
19-20. 作家作品論Ⅱ	作家作品論・第2段階
21-22. 国語教材研究論Ⅱ	国語教材研究論・第Ⅱ段階
23-24. 国語科教育実践論Ⅱ	国語科教育実践論・第Ⅱ段階
25-26. 国語科教育指導論Ⅱ	国語科教育指導論・第Ⅱ段階
27-28. 国語科教育授業論Ⅰ	国語科教育授業論について
29-30. 国語科教育授業論Ⅱ	国語科教育授業論・第Ⅱ段階
31.　試験	

Ⅴ　使用テキスト・教材等
講義において、適宜指示する。

Ⅵ　参考書・参考資料
講義において、適宜指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	15	15	20	
国語科教育学の構造の理解	○			○	
国語教材の研究及び実践、発表	○	○	○	○	
国語科の実践授業、授業研究への応用	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
講義で使用する文学作品を、事前に読んでおくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
授業に関係のない私語は絶対にしないこと、従わない場合には退席を命じる。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
音楽科教育研究		**4**	**音**	**1**	**北山敦康**

Ⅰ　主題

この授業は、中学校教諭一種「音楽」免許の必修科目である。ここでは、以下のような到達目標を設定している。

Ⅱ　授業の到達目標

1.本科で学んだ「音楽科教育法」の知識・経験をさらに発展させる。
2.中学校の音楽科授業における実践的指導力を高める。
3.今日的な教育課題に対応した授業デザインや教材開発の能力を向上させる。

Ⅲ　授業の概要

授業の前半期は講義を中心にして音楽教育の現状把握や各自の問題意識の再構築を行い、後半期においてはディスカッションを通して授業実践力と授業研究能力の向上を図る。

Ⅳ　授業計画と内容

	項目	内容
1.	オリエンテーション	本授業の概要と計画について
2～4.	音楽教育の歴史	学習指導要領の変遷と目的観
5～7.	音楽教育の方法	多感覚教育とその方法
8～9.	音楽教育の目的	音楽教育の課題と展望
10～11.	教材分析(1)	歌唱、器楽
12～15.	教材分析(2)	鑑賞、創作
16.	まとめ	前半期の総括
17～20.	教材研究の方法	実践例に学ぶ教材研究
21～25.	学習計画の立案	指導案の作成と手順
26～27.	事例研究(1)	授業事例の検討
28～29.	事例研究(2)	授業事例の検討
30.	まとめ	後半期および全体の総括

Ⅴ　使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説・音楽編　　文部科学省　　教育芸術社　　2008

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で指示した予習・復習を行い、課題についてレポートを作成すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

テキストは特に指定しませんので、本科の音楽科教育法で使用したものと中学校学習指導要領解説・音楽編（文部科学省）を持ってきてください。必要に応じて印刷資料を配布します。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
道徳教育研究		**2**	**国音**	**2**	**小長井邦男**

Ⅰ　主題

「豊かな心」をはぐくむ中心的な役割を果たす道徳教育の内容について、理論や実践事例を学び、道徳教育の教育的意義をいっそう明確に理解する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.生きる力の育成の関係から道徳教育の重要性を理解できる。
2.「道徳の時間の指導」における道徳授業の基本形を理解できる。
3.道徳授業の「自分を振り返る発問」の重要性を理解できる。

Ⅲ　授業の概要

静岡県の道徳研究部の実践研究や発達段階を踏まえた授業案づくりを通して、指導者になるための資質を高める。

Ⅳ　授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校一種を取得するための必修科目である。

項　目	内　容
1. 道徳の目標	生きる力との関係
2. 道徳の内容	内容構成の考え方
3. 内容項目の指導のポイント①	自分自身に関すること
4. 内容項目の指導のポイント②	他人とのかかわりに関すること
5. 内容項目の指導のポイント③	自然や崇高なものとのかかわりに関すること
6. 内容項目の指導のポイント④	集団や社会とのかかわりに関すること
7. 年間指導計画	35時間の計画と確実実施
8.「道徳の時間」の指導法	授業の基本形　自分を振り返る発問
9. 実践活動研究①	年間指導計画の実際研究
10. 実践活動研究②	道徳の時間の指導の実際研究
11. 実践活動研究③	道徳の時間の指導案作成①
12. 実践活動研究④	道徳の時間の指導案作成②
13. 実践活動研究⑤	道徳の時間の指導　模擬授業①
14. 実践活動研究⑥	道徳の時間の指導　模擬授業②
15. 演習のまとめ	「自分を振り返る発問」の研究

Ⅴ　使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説　道徳編　　文部科学省
その他プリントは講義中に配付

Ⅵ　参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	60	20		20	
道徳教育の重要性の理解	○	○		○	
「道徳の時間」の授業の基本形の理解	○	○		○	
「自分を振り返る発問」の理解	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
教育課程の研究		**2**	**国音**	**2**	**小長井邦男**

Ⅰ　主題

この授業では、「生きる力」の育成を基本とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心」をバランスよくはぐくむことを目指した教育課程の編成が求められていることを理解する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.「生きる力」を育成する教育課程のあり方を理解できる。
2.「確かな学力」「豊かな心」「健やか心」をはぐくむ教育課程のあり方を理解できる。
3.PDACサイクルでの教育課程の改善の実際を理解できる。

Ⅲ　授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

Ⅳ　授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校一種を取得するための選択科目である。

項　目	内　容
1.教育課程とは何か	教育内容の決定
2.学習指導要領改訂の方針	改訂の背景と方針
3.学習指導要領の役割	教育水準の確保
4.学習指導要領と教科書	教科書の検定と採択
5.教育課程と評価規準	指導と評価の一体化
6.総合的な学習の取扱い	「生きる力」との関係
7.年間指導計画と授業時数	標準時数の確保（法的根拠）
8.教育課程実施上の配慮事項①	指導方法及び指導体制の工夫
9.教育課程実施上の配慮事項②	評価と改善　家庭・地域との連携
10.教育課程の編成と実施①	基本的な考え方　学校経営方針
11.教育課程の編成と実施②	編成の手順
12.教育課程の評価①	評価の観点　新年度対策
13.教育課程の評価②	評価の方法
14.教育課程の評価③	評価から改善へ　共通認識
15.教育課程の改善	改善の方法　教育委員会へ届け

Ⅴ　使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説総則編　　文部科学省
その他プリントは講義中に配付

Ⅵ　参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	60	20		20	
学習指導要領の基本精神の理解	○	○		○	
「生きる力」を育成する取り組みの理解	○	○		○	
PDACサイクルの実際の理解	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
特別活動研究		**2**	**国音**	**2**	**小長井邦男**

Ⅰ　主題

この授業では、特別活動の内容についての実践事例から、特別活動の教育的意義や成果・課題を学び、特別活動のいっそうの理解を深める。

Ⅱ　授業の到達目標

1.ガイダンスの機能を生かす活動内容を理解できる。
2.自主的・実践的な態度を育てる活動内容を理解できる。
3.人間関係を育成する活動内容を理解できる。

Ⅲ　授業の概要

静岡県の特別活動研究部の実践研究や発達段階を踏まえた授業案づくりを通して、指導者になるための資質を高める。

Ⅳ　授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校一種を取得するための選択科目である。

項　目	内　容
1.特別活動の教育的意義	学習指導要領改訂の背景
2.静岡県の特別活動の実際	教員の任意研修と道徳研究部
3.研究方針から学ぶ	研究大会と研究集録
4.事例研究　学級活動①	ガイダンスの機能を生かす活動
5.事例研究　学級活動②	人間関係を構築する手だて
6.事例研究　生徒会活動①	異学年集団活動の実際
7.事例研究　生徒会活動②	生徒会活動を活発にする手だて
8.事例研究　学校行事①	縦の連携(学校)、横の連携(学年)
9.事例研究　学校行事②	自発的・自治的活動の実際
10.事例研究　キャリア教育①	各学年でのキャリア教育
11.事例研究　キャリア教育②	起業家精神の啓発と地域連携
12.学校行事の計画①	実施計画案の作成
13.学校行事の計画②	実施計画案の作成
14.学校行事の計画③	実施計画案の職員会議への提案
15.「特別活動研究」のまとめ	まとめと資料整理

Ⅴ　使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説特別活動編　　文部科学省
その他プリントは講義中に配付

Ⅵ　参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	60	20		20	
学級活動の実際の理解	○	○		○	
生徒会活動の実際の理解	○	○		○	
学校行事の実際の理解	○	○		○	
キャリア教育の実際の理解	○	○		○	
計画案作成手順の理解	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること